

経営比較分析表（平成30年度決算）

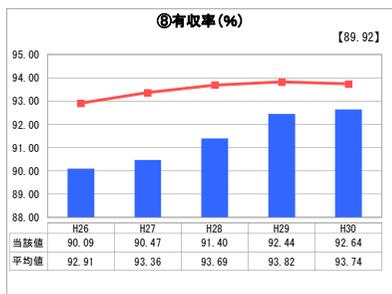
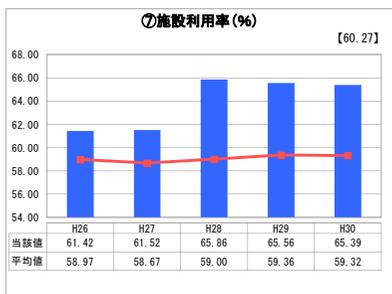
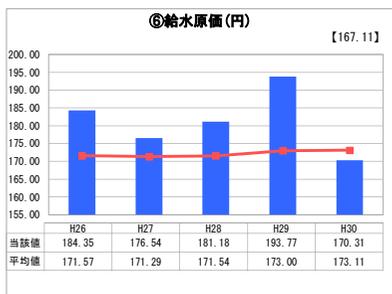
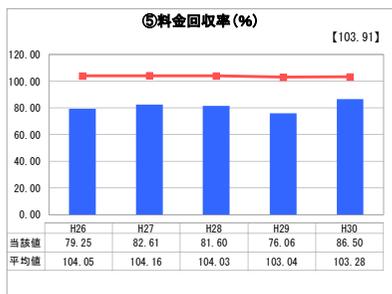
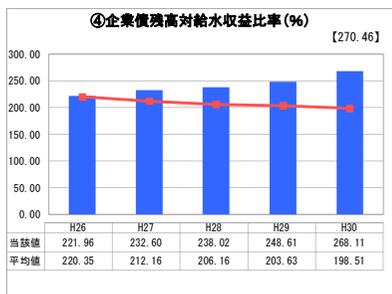
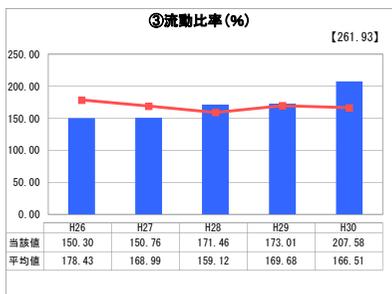
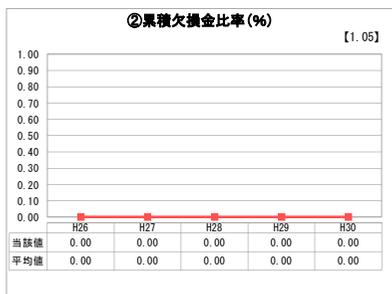
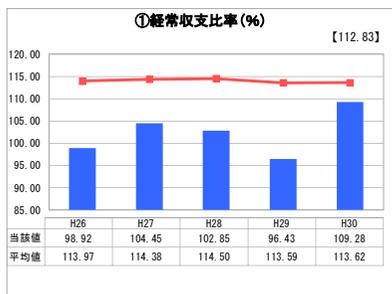
神奈川県 川崎市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	政令市等	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ² 当たり家庭料金(円)	
-	58.35	100.00	2,278	

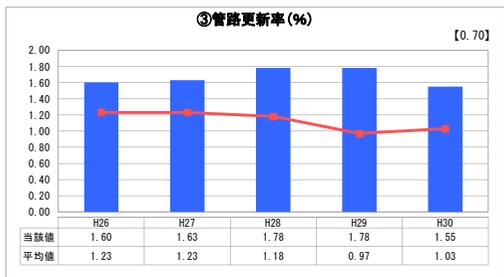
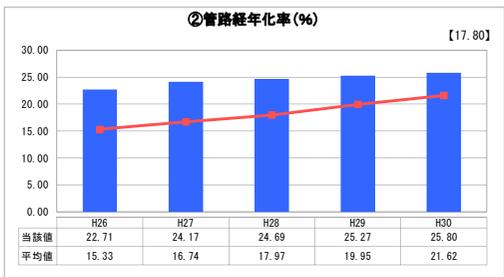
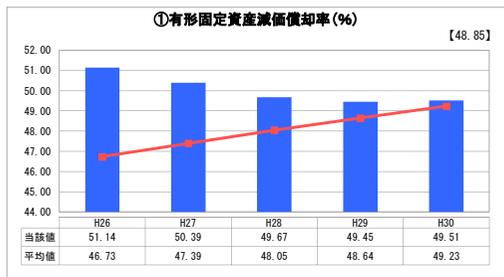
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,500,460	143.01	10,491.99
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,522,208	144.35	10,545.26

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

川崎市では、将来の水需要を見据え、給水能力の見直しを主軸とした再構築計画に基づき、老朽化した浄水場等の更新に合わせて3つの浄水場を1つに集約することによるダウンサイジングを実施しました。

○①経常収支比率は、類似団体を下回っているものの、100%を上回っているとともに、②累積欠損金は計上されていないため、経営の健全性は維持しています。また、③流動比率は、概ね類似団体並みであり、短期的な資金繰りには問題ないものと考えます。しかし、今後、老朽化対策等により更なる更新需要の増加が見込まれることから、長期的な経営状況を考慮し、④企業債残高対給水収益比率が増加しすぎないよう留意しながら、計画的に進める必要があります。

○平成30年度の⑥給水原価は、類似団体を下回ったものの、低廉な料金水準となっていることから、供給単価が低く、⑤料金回収率は類似団体よりも低い水準で推移していますが、附帯収益があり健全経営を維持しています。

○⑦施設利用率は、再構築計画に基づき行った平成24年度の浄水場の廃止及び平成28年度の長沢浄水場への機能集約の完了により、類似団体と比べ高い水準で推移しており、施設が効率的かつ適正な規模で運用されています。⑧有収率は、老朽給水管の影響等により漏水率が高いため、類似団体よりも低い水準にあるものの、漏水率の改善に努めていることから改善傾向にあります。

2. 老朽化の状況について

○①有形固定資産減価償却率は、前年度から微増となったものの、類似団体が増加傾向にある中で、本市は、施設のダウンサイジングを実施するなど、着実に更新を進めていることから、減少傾向で推移しています。②管路経年化率は、類似団体に比べて高水準かつ増加傾向にありますが、③管路更新率は、類似団体と比較して高水準で管路更新を実施しています。

○今後は、より一層、管路更新に重点的に取り組み、年間約40kmの管路更新（更新率1.67%）を継続していく計画となっています。

全体総括

○短期的な資金繰りには問題ありませんが、今後は、課題である管路の更新といった老朽化対策等に伴い、更なる更新需要の増加が見込まれるため、アセットマネジメント等により、更なる適正管理が求められます。

○水需要については、今後も人口は増加するものの、料金収入は横ばいもしくは微減で推移する見込みです。今後は、将来にわたって持続可能な経営基盤の確保に向けた取組や検討が必要です。

○今後の事業展開の指針とするため、30年から50年程度先の将来を見据え、平成29年度から概ね10年間を対象期間とする「川崎市上下水道ビジョン」と、その実施計画として経営戦略に位置付けられた「川崎市上下水道事業中期計画」を平成28年度末に策定し、各取組を着実に推進しています。